

中学校教師 として生きる

第2版

仕事・心構えとその魅力

中瀬 浩一

大橋 忠司

井上 浩史

樹村 房

はじめに

中学校の教員免許状を取得する人は年間約50,000人います（平成27年度は50,798人、文部科学省「平成27年度教員免許状授与件数等調査結果について」）。教職を志望する学生は大学の教職課程で、教師という職業にはどのような仕事内容があり、どのような法規を守るべきか等について学びます。これはどの教科の免許状を取得するにあたって必須となっており、主に1年次に「教職概論」「教職入門」等という名称で開講されています。これらの科目は、教職を将来の仕事として選択するのか、このまま教職課程を受講し続けるのかという職業選択に資することも目標の一つに掲げられています。高校生活から大学に入学した直後の学生にとって、将来の職業に対するイメージが持ちにくいといわれるとともに、昨今の教職への偏ったイメージを払拭し、リアリティある将来の教師像を描いていくためにも重要な科目となっています。

将来の職業の一つとして教職を選択した学生は、その後、教職に関する専門科目の履修を行います。教育実習や教員採用試験を経て、合格通知を手にした学生は、卒業間際になると、間近に迫った教員生活への不安が増加してきます。この時期（4年次後期）に開講される教職必修科目「教職実践演習」は、教員生活を具体的に想定した実践的な内容を行う科目ですが、教員の生活そのものについての学びは先にあげた1年次の「教職概論」以降ほとんど触れられておらず、改めての学びが必要となります。

本書は、そのような学生の不安を解消するための「副読本」的な役割を果たすものと考えています。一人の新任中学校教師が教員生活で遭遇するであろう出来事や悩みを物語風に書き綴りました。それらの出来事や悩みに対して、定年退職を控えたベテラン教員がアドバイスするという形式でまとめています。資料はできるだけ現場の学校で使用しているものをもとにして作成しました。読者にとっては、主人公とともに新任当初の中学校教員の職務や心構えなどを学ぶことができるようにしています。

本書の著者は、ともに公立中学校での職務経験のある大学の教職課程に所属する教員です。中瀬が物語のベースを執筆し、大橋が内容のチェックと関連資

料の収集を行いました。掲載項目は2人で協議して選定しました。中瀬は中学校と特別支援学校で教員として働いていました。大橋は一般大学（理学部）を卒業、民間企業に就職後、教員採用試験を受験し転職しました。中学校教諭、教頭、校長をし、教育委員会でいじめ・不登校等課題を抱える子どもたちの対策部署の責任者を担当し、定年退職後、同志社大学に着任しています。その経験は、教職に対する不安を抱く若手教員や大学生に対して有益なストーリーを提供してくれます。

教職課程の「教職概論」や「教職実践演習」等の授業での副読本としてだけでなく、教員採用試験の対策や、教育学系大学院・教職系大学院への進学希望者の学習参考書として、また、採用後5年程度未満の若手教員にとっても、将来の教師人生を見通す書としての役割を果たすと自負しています。

最後になりましたが、本書に出版に際して、樹村房の大塚栄一氏には構想段階からいろいろご助言や多くの励ましをいただき、お世話になりました。この紙面を借りて感謝申し上げます。

2019年3月

中瀬 浩一

第2版にあたって

初版から5年が経過し、学校教育をめぐる状況もかなり変わりました。その間のコロナ禍や働き方改革などの社会情勢の変化もあり、初版の内容では現状にそぐわない記述や資料も増えてきました。第2版の編集にあたっては、新たな視点を加えることで、教職課程の学生に実際の学校現場を初版以上に実感できる内容にすることを心がけました。

執筆は中瀬・大橋に井上が加わりました。井上は大学卒業後、中学校教諭となり、校長、教育委員会での経験があり、定年退職後は同志社大学で後進の育成にあっています。初版同様、他書ではあまり目にすることがない学校現場で活用している資料を一部修正して掲載しています。教職をめぐる学生にとって、より具体的に教師の仕事がイメージできる内容になったと思っています。

2024年9月

中瀬 浩一

も く じ

はじめに	3
0. プロローグ	7
1. 学校が決まった！	9
2. 学年会と教科会	11
3. 教師生活スタート！ 辞令交付式	14
4. 明日は入学式	21
5. 学級開き	25
6. もうすぐ授業が始まる！	30
7. 教育課程	33
8. 初任者研修	38
9. 家庭訪問	43
10. 部活動	48
11. 生徒理解—中学生という発達段階—	51
12. 生徒会活動	53
13. 道徳	57
14. いじめ	61
15. 不登校	66
16. ケース会議	73
17. キャリア教育	78
18. 指導要録	89
19. 教員評価	94
おわりに	99
参考文献	103
巻末資料	105
さくいん	131



教師生活を終える私から教師になろうと思っている君に。

もうすぐ私の40年にわたる教師生活が終わります。

私は教師になりたいと思い採用試験を受けたけれど不合格となり、大学卒業後は金融機関に就職をしました。その後、やはり教師をあきらめきれず、再度受験し、合格できました。あれから私は中学生の子どもたちとともに過ごしてきました。

今、教師という仕事について、いろいろ言われています。指摘されているとおりに思うこともあったり、「そうじゃない」と思うこともあったり……さまざまな思いが巡ります。ただ言えるのは、子どもが好きで教師をめざし、子どもたちに寄り添いたいと思っている若者にとって、昨今の学校現場はあまりにも複雑になってしまい、自分の人生をかけていくには大きな不安を抱えている人が少なからずいるということです。その不安の中で学校に赴き、子どもたちや保護者、同僚の教師たちと向き合っていくのは、確かに大変なことだと思います。

そこで、若い教師がどのような仕事に直面し、どのようなことに気をつけていけばいいかについて、私がこれまでの教師生活で得てきたものを伝えていくことが、今の私に課せられた役割と思うようになりました。架空の新任教師井上先生を主人公にして、私がアドバイスをするという形式で、これから教師生活をスタートさせよう、教師になろうと思っている人たちをバックアップしていきます。

教師は、一言では言い表せないほどの仕事がありますが、その一端だけでも理解していただくことができれば幸いです。

本書の登場人物紹介



大中先生

定年を控えたベテラン中学校教師。

新任教師の井上先生に中学校教師として成長していくためのさまざまなアドバイスをします。



私（井上先生）

新任教師。中学校1年2組担任。

教科は社会。陸上部顧問。

1年1組担任（田中先生）

1年3組担任・学年主任（山口先生）

1年4組担任（柳澤先生）

教務主任（沖田先生）

1. 学校が決まった！



3月下旬に今出川中学校の教頭先生から連絡があり、赴任する学校が決まった。いよいよ念願の教師生活が現実のものとなる。

3月下旬から4月初めは、いわゆる春休みで、中学生の頃は、「授業はないし、部活だけだし、先生という仕事はなんて楽な仕事なんだ！」と思っていたが、そんなことはないことは大学の教職課程の授業でも学んだ。新年度の準備や新入生を迎える準備などに大変忙しい時期らしい。そのうえ、私のような新任教師や、他校から転動してくる先生への対応などもあるだろう。きっと、学校の中はバタバタとしているのだろうな。



【大中先生からのアドバイス】 3月下旬から4月初めは、学校では新年度の校内の体制づくりの職員会議や研修会などが連日行われています。校務分掌・担当学年・教科の授業クラス・部活顧問などの確認、さらにはクラス編成や時間割の作成、特別教室の使用配当や新入生を迎えるための諸準備も平行して行われるなど、実は1年間でいちばん忙しい時期なのです。学校の規模や事情によっては副担任になることや、複数の学年に跨がって授業クラスを持つこともあります。

さて、ここで、教員が一同に集まって行う会議を教員会議ではなく職員会議と呼んでいることに気づいたでしょうか。そもそも学校には教員以外の方もおられます。例えば、事務職員、管理用務員、栄養職員、給食調理員、校務支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの方々です。よって、学校の教育活動というのは、“教職員”が一致団結して取り組んでいると言えます。今後は、教員以外の方（職員）も含めた学校体制であることを意識してほしいと思います。

なお、3月下旬に配置校が決定するので、辞令交付式（4月1日）の前に、配置校（管理職）から連絡があり挨拶に行くこともあります。当然、挨拶に行くのですから、服装はスーツなど、それに相応しいものがよいと思います。そして、校長先生や教頭先生などから学校の説明があると思います。校内の雰囲気

気や学校近辺の環境に触れる良い機会になるでしょう。また、その際に担任・教科の授業を担当する学年・校務分掌・部活顧問などの希望を聞かれることもあります。ただし、新任の教師だけでなく他校から異動してきた教職員の希望も一緒に検討されることになるので、必ずしも希望通りになるとは限りません。

さあ、教師生活の START が目前に迫ってきました！

2. 学年会と教科会



学校にはさまざまな会議がある。職員会議や（校務）分掌会議，学年会，教科会……。開催頻度は会議によって毎週開催のものもあれば，月に1回や学期に1回，不定期のものもある。どれも学校という組織を運営していく上で重要な会議ではあるが，初任者の私にとってはなんといっても学年会が最重要に感じる。私は1年2組の担任で，1年は4組まである。学年に所属している教師は，各学級担任4人と，副担任の教員が2人の合計6人だ。通常はこの6人で1年生全体を取り仕切ることになっていて，全員が集まって行う会議を「学年会」と呼んでいて，原則月に2回の割合で行っている。学年のリーダー役として学年主任の先生がいる。1年の学年主任は山口先生である。



【大中先生からのアドバイス】 組織的にも同じ学年に所属する教師間の連携はきわめて重要です。そのため，「学年会」という同じ学年の担任，副担任，学年に所属している教職員が一同に集まり，学年としての運営について協議する会議を定期的（月に2回程度）に開催しています。「学校行事」だけでなく，「道徳」・「総合的な学習の時間」・「学級活動」の計画および活動内容（テーマなど）の確認および役割分担，配慮の必要な生徒の共通理解，問題行動を起こした生徒の指導方針など幅広く協議および情報交換を行っています。学級毎に取り組みが大きく異なっていたり指導方法が違っていたりすると，生徒や保護者からの信用失墜につながります。よって，「学年会」で正確な情報共有および合意形成することで，学年のあらゆる教育活動が円滑に進行していくのです。

資料1のように年度当初の「学年会」は頻度も多く，様々な内容について話し合われます。

また，「学年会」同様に重要な会議として「教科会」があります。「教科会」は校内の同じ教科の教師が一同に集まって協議するものです。定期的（週1回程度）に開催して，各学年の授業内容や進度の確認や定期テストの出題内容の

協議，成績評価の共通理解などを図っています。特に年度当初は，担当する授業クラスの決定，各学年の教科目標や年間計画の作成，教材購入の内容の確認などを行っています。

資料１～３は，中学校の年度当初の「学年会」と「教科会」の具体的な協議内容の例です。

資料１ 年度初めの学年会の内容（例）

- 学級担任，副担任の確認
- 学年の目標，指導方針
- 入学式，始業式について
- クラス発表名簿（掲示用）の作成
- 学年分掌の決定
 - ・ 団体指揮 ・ 学校祭準備委員 ・ 保健
 - ・ 職員会議議長 ・ 朝読書，朝学習 ・ 特別支援教育
 - ・ 学年会計 ・ 親睦会
 - ・ 担任クラス ・ 副担任のクラス
- その他

資料２ 年度初めの教科会の内容（例）

- 教科主任の決定
- 教科目標，具体的取組，確認事項，教科会費について
- 教科授業担当表（時間割編成についての要望事項等）
- 年間行事計画
- 教育実習生受入について
- 学習指導簿希望数について
- 教科書・指導書必要数について
- その他

2. 学年会と教科会

資料3 学年会と教科会について

学年会① (14:00～)

1 年：ふれあいルーム	2 年：図書室	3 年：進路相談室
・学級担任、副担任の決定 ・学年の指導方針 ・入学式、始業式について ・クラス発表名簿（掲示用）の作成 ・学年分掌選出（下記の枠内参照）	・学年分掌の決定 ・学年親睦会費（月額決定） ・転入、転出者の確認 ・学校預り金学年予算の立案	
（＊マークは必ず決定して、別紙「学年所属・学年分掌報告用紙」に記入し学年会後、教務へ提出）		
分掌例（各学年で必要に応じて学年分掌を設定してください。） 団体指揮 ＊学校祭準備委員（体育・文化1名ずつ…委員長を除く） 保健 朝読書・朝学習 職員会議議長 総合育成支援教育 預かり金担当 ＊学年会計 ＊親睦会 ＊各人権学習担当 など		

・職員室座席決定

★学年会終了後、以下の①～③を教務（ ）へ提出

①「学年所属・学年分掌報告用紙」， ②「職員室座席配置」

③学年生徒名簿紙ベースで1枚（学級別，男女混合五十音順で）←（データをセンターサーバー入学年度のファイル内に）
 クラス発表名簿（掲示用）の例 模造紙半分を横長にする

計	※男女混合名簿で発表する（文字の色は男女同色で）	年
名		組

※担任・副担任名は名簿に書かない。

教科会 (16:00～)

国－図書室	社－職員室	数－ふれあいR	理－2理	音－音楽室
美－美術室	保体－体育管理室	技家－調理室	英－相談室	

・教科主任の決定 ・教科授業担当の決定 ・教科目標，具体的取組，確認事項，予算等について

★教科会終了後、

①教科担当等報告用紙 を，教務（ ）へ提出

②教科ファイル等購入希望の有無 を，事務（ ）へ提出

3.

教師生活スタート！ 辞令交付式



4月1日午前10時、教育センターのホールで辞令交付式があった。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員として採用された新任教員が集まった。教育長から辞令をもらい、これでいよいよ教師になったという気持ちが込み上がってきた。

学校に移動後、私のような新任教員と他校から異動してきた教員は会議室に集められ、校長先生、教頭先生の挨拶の他、今日からの会議などの予定についての説明を受けた。配られた用紙には各学年の担任氏名と校務分掌表が載っていた。私は1年2組の欄に名前が書かれている。1年は4クラスあり1組は田中先生、3組は山口先生、4組は柳澤先生と書かれている。その他、山口先生に○印がついていて学年主任とのことらしい。校務分掌表には、人権教育部の欄に私の名前がある。管理職からの説明が終わると、事務担当職員の方が来られ、事務手続きについての説明があった。給与の振込口座や通勤経路の申請など、さまざまな提出書類についての説明を受けた。

午後2時からは学年会、午後4時から校務分掌部会、と会議が連続して開かれた。初めての環境で、次々にたくさん話を聞き、初めて会う先生ばかりで緊張した一日だった。



【大中先生からのアドバイス】 4月1日は、新任教師にとっては、とても緊張すると同時に慌ただしい一日になると思います。厳かな辞令交付式、赴任した中学校でのさまざまな説明および会議などで相当疲れることでしょう。

資料4・5は校務分掌、資料6～8は年度始めの予定や流れの例です。

始業式や入学式（生徒が実際に登校する）までの僅かな期間にたくさんの準備が行われます。おおよその流れを知っておくと少し気持ちが楽になれると思います。

3. 教師生活スタート！ 辞令交付式

資料4 校務分掌表

		1	2	3	左端がチーフ
校長—教頭	教務部	教務	時間割	—	4
			代行計画・定期テスト監督担当	—	4
			教科書・副読本	—	2
			小中連携	—	4
			成績資料管理・校務支援システム	—	5
		学校公開	学校・学年だより	—	4
			学校ホームページ	1年 2年 3年	4
			掲示板(内容:生徒会・部活・学級)	—	2
		学事	転出入・区域外	—	1
			学籍・各証明・学割	—	1
	庶務部	管理	生涯学習	PTAとの各種委員会担当	7
			スポーツ振興センター	—	1
			厚生	—	1
			備品	—	3
			営繕・校内美化	—	2
		経理	就学援助・学校預り金	—	3
			給食	—	2
			給与・経理	—	1
			公文書・文書	—	1
		学習指導部	各種教育	ICT情報教育	3
				図書館教育	1
				食教育	1
		教科教育	各教科の指導	—	7
			道徳教育	道徳の企画・推進	4
			特別活動	特別活動と学級活動	2
		研究推進	研究企画・研究事業・各種検定	—	4
			総合的な学習	総合学習の計画	3
			進路指導	進路学習・各種検査	2
		人権教育部		進路指導の企画・推進	1
		人権問題学習	同和問題についての学習	—	4
			ジェンダーに関する学習	—	4
			外国につながる市民の人権についての学習	—	4
		人権教育企画	障がい者の人権についての学習	—	3
			人権教育推進	—	3
			総合育成支援教育	—	2
		生徒指導部		LD等特別支援教育	2
		教育相談	教育相談・SCコーディネーター	—	1
			SSWコーディネーター	—	1
		補導保健	保健	—	3
			安全管理	—	2
		学校安全	安全教育	—	2
			安全管理	—	2
		生徒会	本部会指導・会計	—	5
			評議会指導	—	3
			図書・文化委員会指導	—	2
			環境・美化委員会指導	—	2
			生活・安全委員会指導	—	3
			保健・体育委員会指導	—	2
			学習協力委員会指導	—	2
		部活動(顧問長)	情報化推進委員会	教育過程・授業及び校務改善に向けたGIGA端末等の有効活用について	6
			学校祭実行委員	文化の部・合唱コン・体育の部	4

資料5 校務分掌の仕事内容



おわりに

—ある教員のライフヒストリー—

教師としてのライフワーク

これまで、教員採用試験に合格してからの教員としての学校を中心とした生活について述べてきました。

2019年に始まった新型コロナウイルスの影響は全世界におよび、社会生活と個人生活に深刻な影響を与え、学校では休校処置がとられ、子どもたちは友人と会うこともなく自宅での生活を余儀なくされました。また、今まで当たり前であった対面での授業も制限されることとなり、学校行事も中止や延期が増えることとなりました。また、文部科学省の GIGA スクール構想による ICT 等の活用で小中学生にタブレット端末が配布され、オンライン授業も実施されるなど学校はコロナ対応だけでなく今まで経験したことの無い対応をせざるを得なくなり、教職員も今まで以上に忙しい毎日を送ることとなりました。

またここ数年、教員の長時間労働が日々マスコミで取り上げられ、教員の働き方改革についても色々と議論され、教員の仕事内容についての見直し等についての改革が少しずつ進められています。

教育には「ここまですればお終い」ということはありません。だからこそ際限なく時間と労力をかけがちになり、必然的に勤務時間が長くなっていくのです。だからといって、過労で倒れたりストレス等で心を病んだり、ましてや過労死などということは絶対あってはならないのです。そうならないためにも今まで以上に政府や教育委員会や校長は教師の働き方に視点を当てた学校改革を真剣に進め、保護者や地域の理解を得ながら世論に訴えていく必要があります。それと同時に、教師自らも自分の健康を守るために、是非とも ON と OFF の切り替えも含めメリハリのある時間の管理に努めてほしいと思います。

教師としての責任と生きがい

ある調査で、教師として仕事にやりがいを強く感じているまたは感じている割合が約 7 割、どちらともいえないが約 2 割、感じていないまたは全く感じていない約 1 割という結果があります。子どもたちが卒業式を迎え「先生、ありがとう」「先生、お世話になりました」「先生に出逢えてよかったです」などの

言葉を聞くと、教師冥利に尽きます。子どもたちからエネルギーを貰い、またまた頑張れるわけです。

教師という職業には「夢とロマン」があります。子どもたちの人生に大きな影響を与えるという素晴らしい職種です。それ故に責任もとても大きく社会からの注目も非常に大きく、公私ともにストレスが大きい職種と言えるかもしれません。

私は「自分らしく生きる」と「共に生きる」をいつも心に刻み、子どもたちと向き合ってきました。教育は「百年の大計」だと言われるように、すぐに結果は出ないかも知れませんが、目の前の子どもたちが大人になり何十年か後に幸せな社会が実現できているようにと理想を追求した仕事ができます。こんな素晴らしい職種はなかなかないと思います。

そのためには、「学び続ける教師」と言われるように、研修会に参加する、先輩から学ぶ、読書や色々な体験などを積極に行い教養を身に付けるなど教師としての自分を磨き続けてほしいと思います。「教師である前に人間であれ」、すなわち人として成長し続ける教師、子どもに教わり、日々学び続けることを惜しまない教師になってほしいと思います。

学校とは「さまざまな立場で生活をし、課題を背負わされた子どもたちが集う場所」です。家庭的に恵まれず、落ち着いて学校生活を送りにくい子どももいます。何らかの事情で友だちとコミュニケーションがとりにくい子どももいます。病気等で学校生活のさまざまな場面で支援が必要な子どももいます。決して忘れないでください。

「十人十色」「みんなちがってみんないい」ということを日々の生活でぜひとも子どもたちに伝え続けてほしいと思います。「子どもは教師の鏡」です。子どもたちの日々の言動は教師の影響がとても大きく絶大です。その言葉、行動の重さと責任の重大さをしっかりと自覚してください。

教師としてのキャリアプランニング

皆さんは教員採用試験で面接官に「何故、教員になりたいと思ったのですか？」と聞かれればどう答えるでしょうか？ おそらく、「子どもが好き」「教えることが好き」「素晴らしい恩師の出会いから教員になりたいと思った」「親が教師でその姿を見て」などと答えることが多いと思います。まさか「校長に

なりたい」とか「教育委員会の指導主事になりたい」とかは言わないと思います。もちろん採用する側からしても教員として採用して良いかどうか少し抵抗を感じるかと思います。しかしながら、皆さんが10年、20年と教師として過ごす中で、中堅教師として学年主任や各分掌の長などの校務の責任者になり学校運営の一翼を担うことも必然的に増えていくかと思います。

目の前の子どもと過ごすことを最優先して、生涯一担任として教職を終える先生もいます。また、管理職の道を選びあるいは選ばざるを得なくなり学校運営のトップの校長として学校経営に手腕を発揮する先生もいます。さらに教育委員会に入り、行政の立場として施策を計画、立案し実行することや学校の管理職や教員に対して指導と助言、支援をする先生もいます。さらには、いったん管理職になったものの自ら降格を願い出て、再度教諭としての生活を送っている先生もいます。

私の場合は、民間企業に勤めたあと教員として採用され担任を経験し、その後、生徒指導主任や学年主任、教務主任などを経験しました。各主任の時は担任をせずに生徒との距離感が少し遠くなってしまい寂しい思いをしたことを覚えています。45歳の時、当時の校長から教頭への推薦をするので受験してみないかと言われ、妻と相談しました。色々と考えましたが最終的に首を縦に振りました。教頭試験に合格し教頭そしてその後校長として管理職の道を歩みました。子どもが安心して安全に過ごせるのが当たり前の学校、保護者にとってわが子が楽しく通え、大切にされるのが当然の学校、地域の人々が大切にしてきた地域の拠点としての学校、教職員が健康で充実した日々を送れるのが当然の学校、そんな学校を校長として経営していく。組織のマネジメントが試される訳です。教員とは全く違った仕事（職種）といえるでしょう。

その後、教育委員会に入り校長先生や教頭先生をはじめとした多くの先生方に指導・助言、そして支援を行いました。再度校長として学校現場に戻りましたが、またまた教育委員会に行政職として入ることとなり、行政マンとしてまったく異なる職種を経験し教育委員会で退職を迎えることとなりました。振り返れば、未来の宝である子どもたちのためになるものと信じて子どもたちの教育に携わることができ、辛いときがなかったと言えば嘘になりますが、それぞれの立場でとても楽しく充実した日々を過ごすことができたと思っています。

す。

教師として将来を考えると、「管理職になるかならないか」は避けられない課題です。あなた自身の生き方に関わる課題であり、ライフスタイルに関わることで、キャリア設計をしっかりと考えなければいけません。そんな時が遅かれ早かれ必ずやってくることを胸に刻んで、目の前の子どもたちに寄り添い、支え、そして精一杯向き合ってほしいと思います。

最後に次の言葉を皆さんに送ります。

平凡な教師は言って聞かせる
よい教師は説明する
優秀な教師はやってみせる
しかし最高の教師は
子どもの心に火をつける

(ウィリアム・ウォード)

2024年8月

大橋 忠司

[執筆者]

中瀬浩一（なかせ・こういち）

1986 大阪教育大学教育学部聾学校教員養成課程卒業

2001 大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程修了

2015 兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科博士課程修了
博士（学校教育学）

1986～2015.3 愛知県立千種聾学校・大阪市立中学校・大阪市立聾学校・筑波技術大学・
大阪市立聴覚特別支援学校に勤務

2015.4～現在 同志社大学免許資格課程センター教授

主著 『視覚・聴覚・言語障害時の医療・療育・教育』（共著，金芳堂，2011），『聴覚障害教育の歴史と展望』（共著，風間書房，2012），『福祉技術ハンドブックー健康な暮らしを支えるためにー』（共著，朝倉書店，2013），『教育オーディオロジーハンドブック』（共編著，ジアース教育新社，2017），『新しい教職基礎論』（共著，サンライズ出版，2018），『改訂特別的教育的ニーズがある子どもの理解ー介護等体験でも役立つ知識と技能ー』（共著，樹村房，2024）

大橋忠司（おおはし・ただし）

1978 大阪市立大学理学部卒業

1979 京都市立中学校採用

（教諭21年，教頭4年，校長5年）

（京都市教育委員会生徒指導課，首席指導主事2年，課長4年）

2015.3 退職

2015.4～2023.3 同志社大学免許資格課程センター教授

2015.4～現在 日本生徒指導学会関西地区研究会副会長，同志社大学免許資格課程センター嘱託講師（2020～），京都女子大学非常勤講師（2021～），相愛大学非常勤講師（2022～）

委員 生徒指導提要（平成22年3月発行，文部科学省）の協力者会議協力者

主著 『新しい教職教育講座教職教育編② 教職論』（共著，ミネルヴァ書房，2018），『新しい教職基礎論』（共著，サンライズ出版，2018），『とびだそう未来へ 中学道徳1，2，3』（共著，教育出版，2018）

井上浩史（いのうえ・ひろし）

1983 東京学芸大学教育学部卒業

1983 京都市立中学校教員採用

（教諭24年，京都大学教育学部臨床心理学講座内地留学1年，校長3年）

（京都市教育委員会指導部生徒指導課指導主事3年，子ども支援専門官2年，首席指導主事2年，課長2年）

2016 大谷大学非常勤講師2年

2020.3 退職

2020.4～現在 同志社大学 免許資格課程センター教授，日本生徒指導学会関西地区研究会常任幹事，龍谷大学 非常勤講師（2022～）

中学校教師として生きる 第2版

——仕事・心構えとその魅力

2019年3月28日 初 版第1刷発行

2024年9月24日 第2版第1刷発行

著 者 中 瀬 浩 一
大 橋 忠 司
井 上 浩 史

〈検印省略〉

発 行 者 大 塚 栄 一

発 行 所 株式会社 樹村房
JUSONBO

〒112-0002

東京都文京区小石川5-11-7

電 話 03-3868-7321

F A X 03-6801-5202

振 替 00190-3-93169

<https://www.jusonbo.co.jp/>

デザイン・イラスト／BERTH Office 印刷・製本／亜細亜印刷株式会社

© Koichi Nakase, Tadashi Ohashi, Hiroshi Inoue, 2024 Printed in Japan
ISBN978-4-88367-392-6 乱丁・落丁本は小社にてお取り替えいたします。